

令和5年度 教育環境充実基金の活用について 全学級への最新型電子黒板の導入 ～未来を生きる子どもを育む教育の実現～

附属小学校

1 最新型電子黒板導入の目的

全ての子どもの学びを支える

鮮明な画面・多彩な機能の活用で
子どもが「わかった」「できた」を
実感する学びの充実



子どもが授業をつくる

主体的・協働的に学び合う
授業の推進



学びの場や機会を広げる

附属校園・大学や
遠隔地と
オンラインでつないで
学ぶ活動を推進



2 導入にあたって

教育環境充実基金を活用させて
いただき、各教室で12年以上使った
40インチの古いモニターを一掃し、
65インチの最新型電子黒板を、1～6
年生の全18学級教室に導入しました。



導入時には、教職員の検討・研修を繰り返しました。研修を通して電子黒板の多様な機能を実際に操作しながら学ぶとともに、教室の設置方法や授業での効果的な活用の方について検討しました。



3 活用の様子

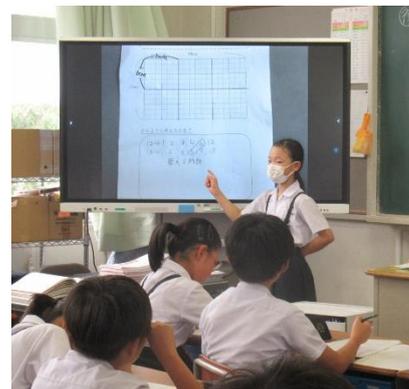
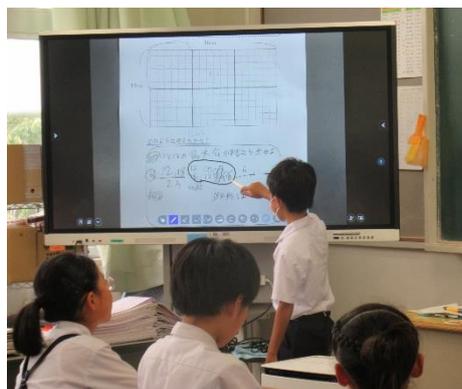
(1) 全ての子どもへの学びを支える

鮮明な画像が、教室の後方の席までよく見えるようになりました。資料が提示されると、子どもたちが顔を上げ、画面に集中して視聴しています。細かい字まで鮮明に教室全体に見え、どの子にもわかりやすい学習が実現できています。また、朝の連絡や前時の授業記録などの画面提示を通して、情報共有も円滑になりました。子どもたちが見通しをもって生活し、安心して学習することができています。



(2) 子どもが学びをつくる

子供たちが電子黒板に自身の作品やノートを開示し、指で操作したり画面上に書き込んだりしながら、自分の考えを伝える場面が頻繁に見られます。また、上学年では、個々の探究的な学習の成果をプレゼンテーションソフトで資料にまとめ、学級全体に発表したり意見交流したりすることがありますが、電子黒板で画面を操作しながら行うことで、よりよい学び合いにつながっています。



(3) 学びの機会や場を広げる

電子黒板で、遠隔地とオンラインでつないでの授業実践にも取り組んでいます。

例えば4年生では、附属特別支援学校との交流を行っていますが、事前にオンラインで子どもたちが対面しました。表情や思いがよく伝わり現地交流の期待が高まりました。

また、遠隔地におられる講師の方々とオンラインでつながり、現場からご指導を受けたりお話を聴かせていただいたりして学びを深める機会が増えました。



さらに、子供たち自身が電子黒板を主体的に活用する場面が増えていきます。

異学年交流活動やゆめタイム（委員会活動）においては、上学年の子どもたちが、活動の説明や資料の提示など、子どもならではの発想を生かして活用しています。



4 子どもたちの声

子どもたちに「電子黒板が入ってよかったこと」を尋ねたところ、

- ・教室全体によく見える。映像を見るために、画面の前に集まる必要がない。
- ・写真や動画が細かいところまできれいに映る。タッチパネルなので拡大できて見やすい。
- ・黒板のチョークよりもたくさん色やいろいろな太さで、文字や印を書ける。
- ・図形や表は、黒板に描くよりも、電子黒板の方が美しく表せる。
- ・前の授業で使った画面がいつでも呼び出せるので、みんなで復習してからその日の学習が進められる。
- ・自分の書いたノートや作品を映して、考えを説明したり紹介したりするので、よく伝わる。
- ・提示した資料を操作しながらの発表やプレゼンテーションに、やりがいを感じる。

などが挙がりました。子どもたちの学習意欲の向上やよりよい学びにつながっていることが伝わります。今後も、電子黒板の効果的な活用を推進していきたいと考えています。